

考えよう 子どものケータイ・スマホ利用 町で取り組む 『か・き・く・け・こ』



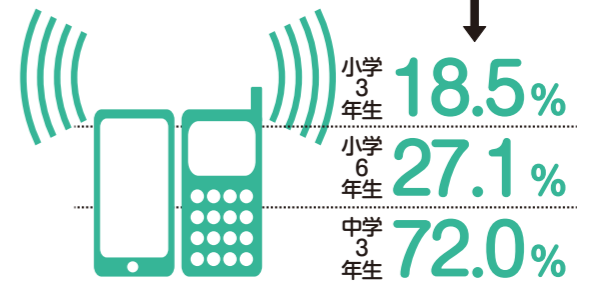
中学3年生の7割近くが自分のケータイ・スマホを持っている

今や私たちの生活に欠かせない携帯電話やスマートフォン。さらにゲーム機の多くはインターネットに接続できる機能を持ち、これらの所持率が子どもたちの間で高くなってきています。

子どもの手のひらに乗った小さな機械で世界中の人とコミュニケーションができるという利便性。それとは裏腹に大きな危険性も秘めていることを、大人も子どももしっかり認識しなければなりません。

今回は、昨年9月に実施したアンケートの結果を踏まえ、これらについて考えてみたいと思います。

子どものケータイ・スマホの所持率は？



町教育委員会『平成26年度ケータイ・スマホ等実態調査』より。パソコンやゲーム機などインターネットにつながる機器があることを含めるとさらに高くなる(小3:68.5%、小6:81.8%、中3:87.2%)



福島 慶子 さん
Fukushima Keiko

元長柄小学校校長。平成26年度には町小学校長会会長を務めた。3月に退職。前原(4区)在住。



大竹 喜代子 さん
Ohtake Kiyoko

町教育委員会教育長。主に中学校で教壇に立った。校長を歴任し、現在に至る。鶯上(12区)在住。



麦倉 正 さん
Mugikura Tadashi

町小中学校PTA連合会会長。スポーツ少年団の活動にも意欲的に参加している。明野(34区)在住。



三ツ村 文夫 さん
Mitsumura Fumio

町青少年育成推進員連絡協議会会長。青少年の健全育成に精根を傾ける。本郷江原(29区)在住。



澤口 洋一 さん
Sawaguchi Youichi

町子ども会育成会連絡協議会会長。会は「地域の子どもは地域で育てる」を掲げる。新中野(33区)在住。

報道から抱いた危機感 実態把握から 未然防止策を

小中学生にも急速に普及しつつある携帯電話(以下、ケータイ)やスマートフォン(以下、スマホ)。そして、ゲーム機。簡単にネットに接続できるようになったため、ネットいじめなどトラ

ブルに巻き込まれる問題が全国で広がっています。「何かと便利で楽しいケータイ・スマホやゲーム機も使い方を誤ると深刻な問題につながる。町の子どもの使用実態を調べて、対策を立てる必要がある」と話すのは町教育委員会の大竹教育長。

このうちのほとんどの児童生徒は、下校したあとの15～22時の時間帯で使用し



手元で行える簡単な操作が、トラブルの引き金になることも

同時に保護者にもアンケート調査を行いました。ケータイ・スマホを持たせている理由では、「連絡を取るため」「遊び道具として」「子どもが欲しいと言った」の順。中学3年生の保護者では「子どもの使用実態の確認を行っていない」が半数を越えました。

「一昔前に主流だったメールよりはるかに簡単な操作でメッセージや画像のやりとりができる上に、複人数のグループでリアルタイムにトークができるなど、とても便利なアプリ」と自身の経験から話すのは、町子ども会育成会連絡協議会の澤口会長。そして、この

簡単な操作で、しかも相手の顔を見ないで仲間は手を手を傷つけているという悪感"を薄れさせてしまうのかもしれない。

罪悪感が希薄な中で 行われるネットトラブル

ていますが、この時間帯は家族で会話やコミュニケーションが取れる時間帯ともいえます。さらに中学3年生では22～0時の時間帯使用が4割を越えました。また、「使用時間や場所などのルールを決めていない」との回答は学年が上がるにつれて高い結果になりました。

インターネット上の交流を通して、社会的ネットワークを構築するサービスのこと「SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」といいます。これらが普及し、使い方を誤ったことがネットいじめにつながると

「簡単」にできてしまうことが問題だと警鐘を鳴らします。「気持ちや伝えるときにはバリエーション豊富なスタンプが使える。グループ設定の機能は、連絡の速さという一番。でも、気に入ら

「いくら便利でも、文字やスタンプだけで相手の表情が見えないのでは意図する全てが伝わらない。誤解が生じれば、いじめに発展することも考えられる」と澤口さん。

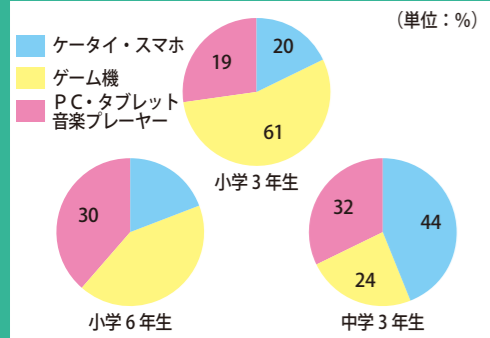


邑楽町立小中学校 携帯電話・スマートフォン、その他の インターネット端末利用実態調査

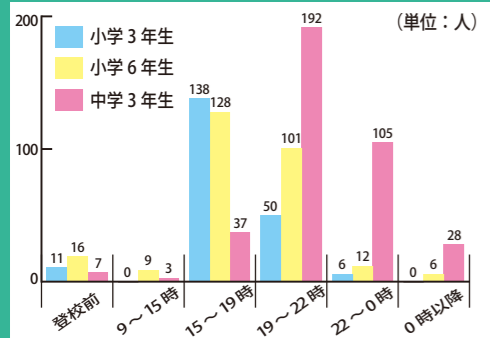
<調査日>平成26年8月28日～9月3日

<調査対象>	児童生徒(人)	保護者(人)
小学3年生	232	195
小学6年生	247	239
中学3年生	257	230
合計	736	664

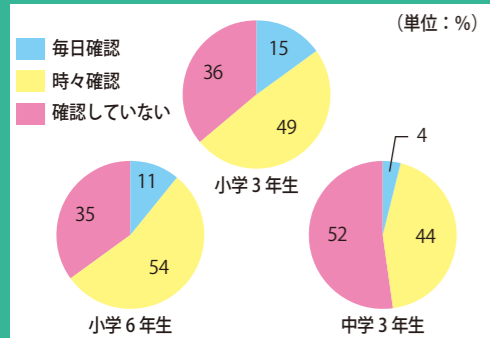
●ネットが利用できる機器の所有率【子ども】



●使用時間帯【子ども】



●使用状況を確認しているか【保護者】



■撮影協力 ■森島咲希さん(店高原・28区)

親が子どもと一緒にゲーム機、ケータイ・スマホを使って、その便利さや楽しさを共感すること。そして、子どもが直面している状況に関心を持つことが大切です



子どもが
いつでも相談できる
親でありたい

「放さない」ではなく
「放せない」の理由
長時間使用の支障

LINEでは、相手がメッセージを読んだことがわかる「既読」表示機能があります。既読なのに返信をしないと「既読放置」(既読スルー、K.S)といわれて、仲間はズレにされてしまうことも。既読スルーがきっかけになる仲間は、それを恐れるあまり、ケータイ・スマホを手放せなくなってしまう子どもも少なくないようです。

「手元があれば機械・機能に限らず使いたくなります

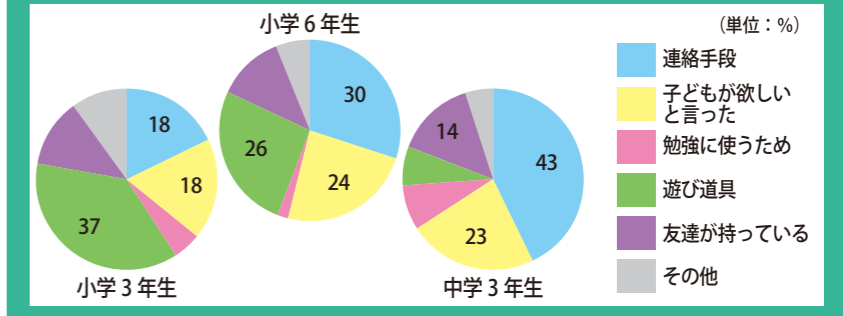
持たせる前に
話し合って、考えて

親が子どもにケータイ・スマホを持たせる理由は、「子どもといつでも連絡が取れる」という安全安心のため。しかし、子どもはゲームや動画、友達とコミュニケーションをしたりするツールと捉えていることが

よ、子どもは。結果的に使用時間は長くなり、夜遅い時間まで使うことになる」と話すのは町小中学校PTA連合会の麦倉会長。中学1年生と小学1年生学年は取材時の父親でもあります。

「うちはケータイ・スマホは持たせていないけれど、ゲーム機は持っている。長時間使用していることが気になって、使用時間を「一日2時間まで」とか「自分の部屋には持って行かない」となどのルールを決めている」と長時間使用が日常生活や学業に支障をきたすことが心配だと話します。

●ケータイ・スマホやゲーム機などを与えたきっかけや理由【保護者】



●主な使用内容【子ども】

	小学3年生	小学6年生	中学3年生
第1位	ゲーム	ゲーム	LINE
第2位	動画閲覧	動画閲覧	動画閲覧
第3位	通話	Web	SNS
第4位	メール	LINE	WEB

家庭内で守ることはもちろんだけれど、このルールを友達にも理解してもらおうことが大切だと加えます。

きつかけづくりに
「ケータイ、スマホの
「か・き・く・け・こ」

町教育委員会では、先のアンケート調査の結果から、「ケータイ・スマホの『か・き・く・け・こ』を作りました。子どもが自ら考える姿勢を育み、正しい使い方を身につけさせようという思いが込められています。すでに小中学校の保護者にはチラシを配布するなど、アピールを行ってきました。

さらに、平成27年1月に開催した邑楽町いじめ防止子ども会議で『正しく使って、ネットいじめゼロ』をテーマに大人と子どもが意見交換を行いました。ケータイ・スマホやゲーム機を使用したトラブルから子どもを守る取り組みを少しずつ広げていきます。

しかし、子どもの迷走を止めるために最も大切なことは、親子がケータイ・スマホやゲーム機について話し合い、情報交換できる関係を持つこと。そして、お互いが正しく、理想的な使い方を身につけること。

さらに「ケータイ・スマホやゲーム機を使ったデジタルの世界を共有し、親子関係を絶たないこと。そもそも、子どもがオフラインの世界(現実の世界)にも楽しみを持つように努めてほしい」と呼びかけます。

このためにも、日頃から保護者の見守りが大切なのかもしれません。

さっそく始めよう
親子で対話

町青少年育成推進員連絡協議会の三ツ村会長は「春休みから新年度にかけての時期、子どもは進学や進級といった節目を迎えて新しい生活環境に期待を膨らませます。一方、生活環境が変わるこの時期はケータイ・スマホやゲーム機の新規購入や買い替えをきっかけにした、いじめやトラブルの発生が心配される時期でもあるんです」と話します。

ケータイ・スマホやゲーム機を持つているか持っていないかに関わらず、この機会に子どもとこれらのあり方について話し合ってみてはいかがでしょうか。

子どもの
ケータイ・スマホ、ゲーム機の
デビューの前におきたいこと

- ▶使用時間を決めておく(時間帯、使用時間の長さ、使用していいときとダメなときなど)。
- ▶使用しない場面を決めておく(食事中、お風呂、勉強中など使用しない状況を具体的に)。
- ▶投稿する場合、個人情報(実名、学校名、住所、メールアドレス、電話番号など)を書き込まないことを教える。
- ▶メールやSNSで知り合った人には個人情報をお教えしない、会わない、会うときは親に知らせておくなどを徹底しておく。
- ▶インターネット上でのルールや気を付けたいこと(言葉づかいに気を付ける、チェーンメールを回さない、他人の写真・画像などを勝手に使わないなど)をあらかじめ教える。
- ▶フィルタリングサービスを利用して有害サイトへのアクセスを制限する。
- ▶不正な請求、出会い系サイトなど内容に関わらずトラブルに巻き込まれそうになったら親に相談することを約束させる。

皆さんに知ってほしい、町の援助や補助制度を紹介

まちのサポート制度帳



- p.10 ~ 11 子ども・高齢者などのサポート
- p.12 ~ 13 生活・安全・健康サポート
- p.14 ~ 15 予防接種サポート

今回のクローズアップは、皆さんの「こんなとき、どんな制度があるの?」「こういう場合に補助の対象にならないの?」といった場合のお役立ち情報です。町の福祉制度から子どもの予防接種、生活サポートなどを一挙に掲載。それぞれのご家庭の事情や生活に合わせた役立つ情報を紹介します。これを機に「まちのサポート制度」を知ってください。そして、ぜひご利用ください。

邑楽町にはコレがある！ みんなで守ろう5つの取り組み

ケータイ・スマホの 『か・き・く・け・こ』

問合せ ▶ 町教育委員会 学校教育課 電話47-5042



必ず守ろう、 家族のきまり。

◎決めたルールを掲示するなど、いつも見えるようにしておきましょう。
◎保護者は子どもがルールを守っているかを確認するなど、保護者が子どもの利用実態を把握することが大切です。



9時、10時。 利用時刻は小 学生は夜9時、中 学生は夜10時まで。

◎実態調査では夜7～10時の利用が多くなっています。この時間は親子の会話、コミュニケーションをとることができる時間です。
◎決められた時刻以降は、置く場所を決めたり、保護者が預かたりするルールを決めましょう。



既読スルーを 気にしない。 強い気持ちで いじめ防止。

◎無料通話アプリやメールなどで返信がなかった場合も、互いに理解し合しましょう。
◎ケータイ・スマホを持っていない子も友達です。理解し合い、仲良くしましょう。



ケータイ、 スマホ、ゲーム機は学校 に持ち込まない！

◎原則として学校には持って行ってはいけません。特別な理由で、ケータイ・スマホなどを所持させる場合は、学校長へ届出が必要です。



子どもを守ろう！ フィルタリング

◎子どもたちが見るつもりがなくても、有害・不適切な情報に突然出会ってしまうことも…。安全にインターネットを利用できるように、フィルタリングサービスで利用環境を整えましょう。

家庭でしっかりと ルール作りを

ルール作りのポイント

トラブルを防ぐには、保護者と子どもが一緒に使い方や危険性を理解し、フィルタリングサービスやセキュリティ設定などの対策をはじめ、安全に使用するためのルールをしっかりと作る事が大切です。
何かあったときに、早い段階で子どもが相談しやすい関係を作っておくことも大切です。

ケータイ・スマホの家庭ルールは使用方法を規制するものではなく、使用を通じて学びを得るものと捉えてみましょう。

- ▼子どもの自主性を尊重したルール作りを心がけましょう。
- ▼子どもは日々成長します。だから、成長段階によってルールを変える必要があります。ルールをステップアップさせながら成長に合わせた内容に変更し、学びと安全を得られるように考えましょう。
- ▼使用料金制限やフィルタリング契約などは、家庭のルールとは別に「携帯電話を持つ条件」として設けるようにしましょう。